

岩波ホール発

アンコール公演 第四弾

# 白石加代子「百物語」

構成・演出 | 鴨下信一

出演 | 白石加代子

宮部みゆき「小袖の手」

朱川湊人「栞の恋」



Designed by charhan ramone

まだ間に合います。これからが「百物語」最終便!!

企画・製作 メジャーリーグ

口の中に広がる何とも言えない、美味な味。

笑いも涙も、苦味も旨味も、

人生の味わいがたっぷりのグルメな二本立て

# 白石加代子「百物語」

構成・演出 | 鴨下信一 出演 | 白石加代子

## 宮部みゆき「小袖の手」 朱川湊人「栞の恋」

### ——妖しく、愛しい袖

このシリーズで取り上げていただいた拙作「小袖の手」は、私がまだ作家として駆け出しのころの作品です。初演の際、客席であやうく涙しそうになりました。それほど嬉しかったし、深く感動しました。

数百人の観客を前に、舞台上で語る白石さんは、たった一人です。でも本当は、白石さんの後ろに大勢の語り部たちがいる。遙か古の時代から、嘗々と怪談を語り継いできた人びとの魂がついているのです。そのなかには、江戸の間、江戸の怪異を語っていた人びとの魂もありました。私が作品のネタにした着物の袖よりも、舞台上の上の白石さんの着物の袖の方が、はるかに豊穡で神秘的な幻想と怪異を隠していました。語りながら白石さんが袖をひるがえすと、その断片がひらり、はらりとこぼれ落ちるのが見えました。

私が江戸怪談に魅入られ、憑かれたように書き続けるようになった理由を、察していただけるでしょう。駆け出しの身で、こんな贅沢で劇的な体験をしてしまった以上、もう逃げられません。

というわけで、白石さんには責任をとっていただきたく——私は今日も、「また舞台上で読んでもらえるといいな」と思いつつ、江戸怪談を書くのです」

宮部みゆき

(白石加代子「百物語」シリーズ第二十九夜「お文の影」「ばんば憑き」パンフレット原稿より転載)

### ——ミラーボールのような百面体の心

私にとって白石加代子さんは、長い間、“怖い人”であった。

その演技に初めて接したのは金田一耕助シリーズの映画だったが、当時は中高生だったので、「何だか映ってるだけで、迫力がある人だなあ」くらいの認識しか持っていなかった。しかし、その後ビデオで『女囚さそり 第41 雑居房』を見て、そう感じたのは気の迷いでなかったと強く実感した。その劇中の白石さんは、まさに迫力の塊であったからだ。本当に何かが憑りついているとしか思えない演技で、「役が憑依してしまう役者さんがいると言うけど、ちょっと憑き過ぎなのでは」と、こちらが心配になってしまうくらいだ。

以来、白石さんを“怖い人”と思いつけてきたのであるが、言うまでもなく、それは大きな間違いである。何のことはない、単に私が演劇に疎く、舞台上の上の白石さんを見る機会を持てなかっただけのことだ。

拙作の『栞の恋』を百物語の演目を選んでいただき、その舞台を拝見した際に私はそれを思い知り、己の考えの浅さを恥ずかしく思った。その時に感じた通りに言えば、白石さんの舞台は、“ちょっとばかり何かに憑かれたくらいで、できるものではない”ということだ。もしかすると白石さんの中に何十通りもの白石さんがいるか、あるいはミラーボールのような百面体の心を持っているのかもしれない——そう考えることで私は自分を納得させたが、その時から白石さんは、もう“怖い人”ではなくなってしまった。

是非みなさんにも、おちやめで可愛くて、黒目がちでおさげが似合う白石さんをご覧いただきたい。

朱川湊人

《公演ホームページ》 <https://ml-geki.com/hyakumonogatari2022/>

※最新情報は公演ホームページにてご確認ください。



照明 | 阿部康子 音響 | 清水麻理子 衣裳 | 池田洋子・江幡洋子 結髪 | 笹部純・柴崎尚子 演出助手 | 平井由紀 舞台監督 | 矢島健 宣伝美術 | チャーハン・ラモン  
広報 | 横島多美枝 制作 | 児玉ひろみ 協力 | 一般社団法人舞台芸術共同企画 hairmake Pure 株式会社スタジオオーデュボン  
プロデューサー | 笹部博司 企画・製作 | 株式会社メジャーリーグ